

キャリアアクション通信

2023/03/24 学習指導部

3 学期の取り組み

令和4年度が終わろうとしています。生徒の皆さんにとって、どのような1年間だったでしょうか。

1月下旬、1・2年生は学年別のキャリアアクション発表会を実施しました。各自が準備してきた成果を発表し、達成感を得たとともに、友人や先輩たちの発表を聞いて大きな刺激を受けたことと思います。

また3年生の早期進路内定者は「卒業課題研究」に取り組みました。新たな試みでしたが、非常に興味深い力作が揃い、3年間の成長の跡が見られるものでした。

第3学年 「卒業課題研究」

学校推薦型選抜・総合型選抜等で早期に進路が内定した3年生が取り組みました。それぞれの進路や興味に応じてテーマを設定し、担当の先生方等からアドバイスをいただきながらレポートにまとめました。タブレットを活用し、決まった書式でレポートをまとめることは多くの生徒にとって初めての経験だったと思われます。色々苦戦しながらも、グラフや画像、表なども交えて分かりやすく伝える工夫が見られ、卒業後の学びに繋がる研究となりました。また、多種多様なテーマが揃い、各生徒の興味関心の対象を伺い知ることができたのは我々教員にとっても非常に意義のあることでした。学校評議員の方々からも、「じっくり読んでみたいと思わせるテーマが多い」「着眼点が素晴らしい」等のお言葉をいただきました。テーマ

の一例を紹介いたします。



【テーマ一例】

音楽の歴史とジェンダー問題、終身刑と死刑制度、教育のデジタル化による影響と課題、スポーツがもたらす経済効果、訪問看護の実態、次世代半導体の実用性と発展、障害者に対する偏見・差別の解消と社会参加について、ビジネスと心理学の関係性、なぜ映像を倍速視聴する若者が増えているのか、年齢による声の変化、国防と未来の日本

第2学年 「学年別発表会」

1月24日(火) 6, 7限



個人研究を進めてきた2年生。今年度は大学見学を行ったり、出前講座を受講したり、講義動画を視聴するなどして、上級学校での学びに触れてきました。各生徒が進路や興味関心に応じた課題を設定し、研究の成果をポスターセッションの形で発表しました。テーマは「救急救命士の現状」、「音と脳」、「赤ちゃんと絵本の関係性」、「映像技術の進化」など、各自の進路希望につながるものも多く、非常に多彩でした。

12会場に分かれての実施でしたが、いずれの教室においても、発表者は身振りを交えながら図やグラフなどを丁寧に説明し、聴衆となった生徒たちも熱心に質問する姿が見られました。

7時限目は1年生も聴衆に加わりました。2年生の間で発表し合った6時限目には、各教室とも雰囲気硬さが見られまし



たが、7時限目は緊張もほぐれ、下級生も加えた聴衆の前で堂々と話すことができていました。1年生からは、「1年生よりも詳しく自分の夢に沿って調べられていた。自分たちがこれから調べるのに参考になった」「さすがは先輩だなと感じる堂々とした発表で、内容的確にまとめられていて学ぶところがたくさんありました」「自分の調べたことを色々な視点からまとめていて、普段は知ることができないような分野の話を聞くことが出来て貴重な時間だった」などの感想がありました。来年度の活動に向けて、良いモデルとなりました。

【テーマ一例】

日本のアニメの影響、NICUと低出生体重児、小学校教諭の多忙化、犯罪はなぜ起きるのか、日本の農業の現状と牛乳、地方公務員の役割と現状、チーム医療と理学療法士、花粉症から学ぶ環境問題、人を癒す住宅のデザイン、疲れを残さない疲労回復、若者が集まるまちづくり、若者の本離れについて、観光産業の重要性と課題



第1学年「学年別発表会」

1月23日(月) 6, 7限

9つの分野に分かれて大学の出前授業に学んだり、地域の小学生との交流等も行ってきた1年生。その集大成として、活動の様子やそれを通して学んだことなどについて、パワーポイントを用いたグループ別の発表会を開催しました。各分野が更に数グループに分かれ、4会場でそれぞれ発表しました。スライドも工夫されており、他分野の発表も興味を持って聞くことができました。研究テーマの一例と、生徒の感想の一部を紹介します。

【テーマ一例】

ネット犯罪から身を守る、医療危機を守ろう、教育格差、豊田北・南小学校の廃校・跡地利用及び小山市の活性化に関する提案、地域におけるものづくりの未来、とちぎ国体について、関わり広げる保育の輪、



地産地消・郷土料理について、栃木県の外国人について

【生徒の反省・感想】

なるべく前を見て話すようにしたり、パワーポイントを話す人に合わせて

動かししたりするなど出来ました。反省点は、抑揚をつけて読むことができなかったことです●班の人と何回も練習してどうしたら伝わりやすいかどうしたら聞いてくれるかを考え、クイズを取り入れるなどして聞いている人を巻き込む

発表ができた●自分が知らない課題がまだまだ沢山あり、それらを解決するためには私たちはどういった事を普段から行なっていけば良いのかがよく分かりました●発表にまとまりがあって、しっかり目的にあった発表になっていてすごく良かった。クイズで楽しく発表を聞いたり、自主性があったのでいいと思った。

1月31日(火)

小山市教育委員会の職員の方々をお迎えし、まちづくり分野の生徒たちが廃校となった小学校の跡地利用についてプレゼンテーションしました。



令和4年度のまとめ

今年度、キャリアアクション・プロジェクトの講師として、出前授業・講話・ディスカッション等のために来校いただいた方々の一覧です(進路指導部による「大学ガイダンス」等は除く・延べ人数)。大学の先生方だけでなく、より年齢に近い大学生や大学院生、社会の各分野で活躍なさっている方々を講師にお迎えしました。普段の各教科の授業では得られない新たな発見や気づきがあったことと思います。

大学教員 (教授・准教授・講師) 計11名	宇都宮大学(地域デザイン科学部2・共同教育学部1・大学院教育学研究科1) 白鷗大学教育学部3、東洋大学法学部1、女子栄養大学1 国際医療福祉大学(医療福祉マネジメント学科1・言語聴覚学科1)
大学生・大学院生 計21名	宇都宮大学(地域デザイン科学部9・大学院教育学研究科7・共同教育学部1)、 日本赤十字看護大学1、中央大学1、城西大学1、埼玉学園大学1
官公庁・企業・ 地域団体等 計10名	栃木日産自動車販売株式会社1、JICA1、石橋おはなし会4、新小山市民病院1、宇都宮地方 検察庁2、栃木県経済同友会1

上記のような「インプット」の機会に加え、各発表会や小学生との交流等、学んだことを実践したり他者に伝えたりする「アウトプット」の機会を持つことができました。下の表は1・2年生を対象に実施した年度末アンケートの結果です。1年生の声と共にご覧ください。

【令和4年度年度末アンケートより】 キャリアアクション・プロジェクトを通して・・・	はい・どちらかと言えばはい		いいえ・どちらかと言えばいいえ	
	1学年	2学年	1学年	2学年
自分の進路について考える機会が増えた	90.9	97.4	9.1	2.6
取り組んできたことを自分の言葉で表現できた	95.9	98.5	4.1	1.6
自ら進んで行動できるようになったと思う	96.5	95.4	3.6	4.6
「自分は頑張った」と思える	92.9	97.9	7.1	2.1

(単位は%)

【1年生振り返り(抜粋)】●キャリアアクションプロジェクトを始める前と比べて自分の進路を改めて見つめることができました。また班で1年同じ項目について調べぬき、その過程で相手への伝え方、協力の仕方をもう一度見直すことができたのでとても良い経験ができたと思います。●改めて自分の知りたい分野を調べて知らないことや気づきが沢山ありました。みんなと協力して取り組めて楽しかったです●自分だけではできない体験をたくさんすることが出来てよかったと思っています。また、グループ活動を通じて自分にできることを考えたり実行したりする力が育ったような気がします。

おわりに

上記の表にあるように、今年度のキャリアアクション・プロジェクトを振り返り、ほとんどの1・2年生が1年間の探究学習を通して自分の将来について考えながら表現力や自主性を高めることができたと感じ、達成感を得られたことが分かります。また、卒業間際に3年生を対象に行ったアンケートでは「キャリアアクション・プロジェクトが進路設計・実現に役立った」と回答した生徒が76.36%でした。

平成30年度入学生取り組みとして始まったキャリアアクション・プロジェクトですが、工夫・改善を重ねながら現在では学校全体の取り組みとして定着してきています。来年度は進路指導部の管轄となり、従来の進路指導行事などとも統合しながら、生徒一人ひとりの進路実現に繋がるよう計画・実施していく予定です。生徒の皆さんの積極的な参加・活動を期待したいと思います。また、学校公式ホームページ等を通して活動の様子をお伝えしてまいりますので、保護者の皆様も是非ご覧ください。